

科目名	成人看護学概論	授業科目名	成人看護学概論
授業回数・時間	7回15時間（試験1時間含む）	開講年次	1年次 後期
単位	1単位		
担当教員	三上みどり		
科目目標	1. 成人期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 成人期にある人を理解するための主要な概念・理論を理解する。 3. 成人保健の動向と保健予防活動を理解する。 4. 成人看護の目的と役割を理解する。		
学習内容	1. 成人期の対象の理解 1) 成人各期の発達段階・発達課題      2) 対象の生活と健康 2. 成人保健活動の概要 成人期の健康増進・疾病予防活動 3. 成人期の看護アプローチの基本 1) 成人期の危機の特徴                      2) 危機介入とコーピング 3) セルフケア行動の形成と維持          4) 障害の受容と支援 5) 終末期を支える看護		
授業計画			
回	講義内容	備考	
1	成人とは		
2	成人に有用な概念①		
3	成人に有用な概念②		
4	成人に有用な概念 発表		
5	生活習慣に関連する健康障害		
6	発達課題		
7	成人における多様な健康観		
	試験		
教科書	22 成人看護学 成人看護学概論： ナーシンググラフィカ メディカ出版		
授業形態	講義 演習		
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況		

科目名	老年看護学概論	授業科目名	老年看護学概論
授業回数・時間	7回15時間（試験1時間含む）	開講年次	1年次 後期
単位	1単位		
担当教員	木村 泰子		
科目目標	1. 老年期にある人の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 老年看護の目的と役割を理解する。 3. 老年期にある人の健康生活を支える保健・医療・福祉の連携のあり方を理解する。		
学習内容	1. 老年期の対象理解 1) 老いとは                      2) 老年期とは                      3) 老年期の発達課題 4) 加齢とところ                5) 高齢者と家族 2. 老年看護の基本 1) 看護の理念                  2) 看護目標                      3) 原則 4) 機能と役割 3. 高齢社会の保健医療福祉活動		
授業計画			
回	講義内容	備考	
1	高齢者に対する意識調査          人生観(グループワーク) 老年看護学概論で何を学ぶか		
2	ライフステージにおける老年期 高齢期の発達課題   フレイル		
3	健康寿命の延伸      アクティブ80ヘルスプラン   老年観 老化とは      特徴   疾病の特徴		
4	老化によるからだの変化(細胞   全身   各諸機能①～⑥)		
5	老化によるからだの変化(各諸機能⑦～⑩) 高齢者の心理的特徴		
6	高齢者の心理的特徴   つきあい方   社会的特徴      (家族の存在) 今後の課題(高齢者虐待)   老後看護の原点		
7	老年看護の実践の視点      旅の終わりに まとめ                              アンケート結果		
	試験		
教科書	老年看護概論・老年保健    : 新体系看護学   メヂカル		
授業形態	講義		
評価方法	筆記試験   課題提出   出席状況		

令和3年度

第53期生

実務経験のある教員による授業科目

科目名	小児看護学概論	授業科目名	小児保健
授業回数・時間	7回 15時間	開講年次	1年次 後期
単位	1単位(小児看護学概論を含む)		
担当教員	小田桐由紀子		
科目目標	1. 小児期の特徴と健康な小児の成長・発達を理解する。 2. 小児保健活動と保健医療福祉の連携を学ぶ。 3. 小児看護の基本概念・看護の目的と役割を理解する。 4. 健康な小児の日常生活とその世話を学ぶ。		
学習内容	1. 新生児・乳児 2. 幼児・学童 3. 思春期・青年期の子ども 4. 家族の特徴とアセスメント		
授業計画			
回	講義内容	備考	
1	家族の特徴とアセスメント		
2	新生児期の特徴		
3	乳児・幼児期の特徴		
4	学童・思春期の特徴		
5	病児に対しての家族の役割		
6	乳児・幼児期の特徴と養育及び看護		
7	学童・思春期の特徴と養育及び看護		
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
	試験		
教科書	小児看護学(1) : 系統看護学講座 医学書院		
授業形態	講義 演習		
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況		

令和3年度	第53期生	実務経験のある教員による授業科目
-------	-------	------------------

科目名	小児看護学概論	授業科目名	小児看護学概論
授業回数・時間	7回 15時間	開講年次	1年次 後期
単位	1単位(小児保健を含む)		
担当教員	山形祐子		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児期の特徴と健康な小児の成長・発達を理解する。</li> <li>2. 小児保健活動と保健医療福祉の連携を学ぶ。</li> <li>3. 小児看護の基本概念・看護の目的と役割を理解する。</li> <li>4. 健康な小児の日常生活とその世話を学ぶ。</li> </ol>		
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護の特徴と理念</li> <li>2. 子どもの成長・発達</li> <li>3. 子どもの栄養</li> <li>4. 子どもと家族を取り巻く社会</li> </ol>		

授業計画		
回	講義内容	備考
1	小児看護の特徴と理念① (小児看護の目指すところ、統計、変遷)	
2	小児看護の特徴と理念② (小児看護の倫理、課題)	
3	小児の成長・発達① (成長・発達とは、成長・発達の進み方)	
4	小児の成長・発達② (成長の評価、発達の評価)	
5	子どもの栄養	離乳食
6	小児と家族を取り巻く社会① (児童福祉、母子保健)	
7	小児と家族を取り巻く社会② (予防接種、学校保健、特別支援教育)	
	試験	

メッセージ	<p>小児看護の基盤は、生まれた子どもを健康に育てるということである。健康な身体をつくり豊かな心を養うことは、幸せに生きていく必要条件である。そのためには健康な身体発育と精神発達を図り、適切な環境にすることが大切である。</p> <p>小児看護学概論では、小児看護の概念や特徴、小児を取り巻く社会や法律・制度を学ぶ。また、小児の成長・発達についての理解を深め、子どもの特性を理解し、健康な生活を送るための小児看護の基礎を学ぶ。</p>
教科書	小児看護学(1) : 系統看護学講座 医学書院
授業形態	講義 演習
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況

科目名	母性看護概論	授業科目名	母性看護学（1）
授業回数・時間	14回 30時間	開講年次	1年次 後期
単位	1単位		
担当教員	山形祐子		
科目目標	1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる。 2. 母性看護の現状と課題が理解できる。 3. 母性看護の対象特性が理解できる。		
学習内容	女性のライフサイクル各期にある母性やその特性を身体的・心理的・社会的側面から捉え理解する。また、母性保健、母性看護活動について学修する。 1. 母性看護の概念                      2. 母子看護の変遷と現状 3. 母性看護の対象理解              4. 母性看護に必要なアセスメントの基礎 5. 女性の各ライフステージの看護    6. リプロダクティブヘルスケア		
授業計画			
回数	講義内容	備考	
1	ガイダンス 母性看護学の構成 准看での復習 母性看護の期本となる概念① ・母性とは ・母子関係と家族発達	小テスト	
2	母性看護の期本となる概念① ・セクシュアリティ                      ・ヘルスプロモーション ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・母性看護のあり方と倫理 ・母性看護の安全、事故予防		
3	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① ・母性看護の歴史的変遷と現状(動向、法律、施策)		
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② ・母性看護の対象を取り巻く環境		
5	法律のまとめ 女性生殖器の図表作成 グループ学習	小テスト	
6	母性看護の対象理解① ・女性の形態と機能およびライフサイクルに伴う変化		
7	母性看護の対象理解② ・女性のライフサイクルと家族      ・母性の発達・成熟・継承	小テスト	
8	母性看護に必要な技術 ・母性看護における看護過程の視点と母性看護技術の特徴		
9	女性のライフステージ各期における看護① ・ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性		
10	女性のライフステージ各期における看護② ・思春期、成熟期の健康と看護		
11	女性のライフステージ各期における看護③ ・更年期、老年期の健康と看護		

回	講義内容	備考
12	リプロダクティブヘルスケア ・家族計画 ・人工妊娠中絶と看護	
13	・性感染症と予防、H I V感染の女性に対する看護 ・性暴力を受けた女性に対する看護 ・喫煙女性の健康と看護 ・児童虐待と看護	
14	グループ発表（垂直感染、更年期障害、性感染症と予防、児童虐待） まとめ	
	試験	
メッセージ	母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。女性を産むだけの性として捉えず、多様な生き方に対する理解やケアについても学んでいきます。准看護学科で学んだ知識を元に更に専門性を高め、「生命と人権」「性と生殖に関する健康と権利」を尊重した看護実践を目指す基盤を学修しましょう。	
教科書	森恵美他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 医学書院	
関連科目	本科目で修得する知識は、2年次開講の疾病論Ⅲ女性生殖器疾患、3年次開講の母性看護援助論Ⅲ(看護過程、看護技術)および母性看護学臨地実習の基盤となる。	
関連書籍	厚生労働統計協会編：国民衛生の動向 2016/2017 厚生労働統計協会 発行 2016	
授業形態	講義 演習 グループ学習	
評価方法	筆記試験 課題提出 出席状況 授業への参加度（発表・態度など）	